みやぎの先人集「未来への架け橋」第２集

みやぎの未来をひらく子供たちへ
新たなメッセージを送ります。

平成２５年に発行した第１集では，江戸・明治時代に活躍した先人を紹介しました。

第２集では，大正・昭和時代を中心に，様々な分野で活躍した宮城県にゆかりのある先人３０名を取り上げます。

新・みやぎの先人
３０名の

人々の幸せを
願って

伝統を
受けついで

新たな
可能性を求めて

感性と技を
みがいて

夢を
追いかけて

生きる姿を伝えます。

道徳の時間などに，みやぎの先人の生き方や考え方を学ぶことを通して，みやぎの志教育が目指す「子供たちの夢をはぐくみ『志』に高める」１冊となるよう作成します。

このリーフレットでは，掲載を予定している先人３０名を紹介します。

平成30年２月
発行予定

宮城県教育委員会
平成２９年２月

人々の幸せを願って

佐藤　基

明治27年～昭和43年（1894～1968）
医学博士　角田市

医者の仕事をしながら研究にはげみ，インシュリンという薬を，世界で初めて発見しました。発表の手続きに時間がかかったために，ノーベル賞をのがしましたが，医者としての信頼はさらに高まり，その後も病気で苦しむ人々を救いました。

松山　京子

明治39年～平成16年（1906～2004）
医師　大河原町

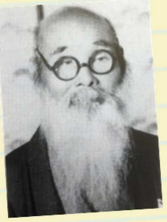
医者のいなかった村に医院を開き，多くの人々の病気を治しました。また，子供たちの心と体の健康を保つための活動にも取り組みました。深い思いやりの心で，昼も夜も休みなく治療に当たり，地域の人々からしたわれました。

谷津　はつね

明治40年～平成8年（1907～1996）
助産師　丸森町

人のためにつくす仕事をしたいと考え，助産師になりました。赤ちゃんが生まれそうだと聞くと，夜中でもかけつけて出産を助けました。雨の日も雪の日も休まずに仕事を続け，３７年間で４，０００人の赤ちゃんの命の誕生を見守りました。

永澤　才吉



天保11年～昭和11年（1840～1936）
古川村戸長（村長）　大崎市

明治時代，古川地域ではコレラという病気により，多くの人々が亡くなりました。当時，古川村の戸長だった永澤才吉は，川の水のよごれが原因だと考え，安全な水を供給するために，自分で費用を出して工事を進め，宮城県で初めて水道を整備しました。

齋藤　眞

明治22年～昭和25年（1889～1950）
医学博士　美里町

脳外科学の新しい分野をひらきました。海外に留学して学んだ後，医者としての仕事をしながら先進的な研究に取り組み，多くの成果を世界に発表しました。戦争の混乱の中でも人々の命を救い，その後も医者の育成や医学の発展につくしました。

加藤　きん

明治23年～昭和55年（1890～1980）
看護師　登米市

ナイチンゲールの生き方に感動し，看護師を志しました。ヨーロッパやアジアの戦地に何度もわたり，敵も味方も区別することなく救護するという広い心をもって，傷ついた人々を救いました。長年の働きが認められ，ナイチンゲール賞を受賞しました。

新たな可能性を求めて

相澤　幸四郎

明治30年～平成12年（1897～2000）
白鳥・ガン愛護会長　登米市

ふるさとの新田地域をよりよくするためには，自然環境や伝統文化を守ることが大切と考え，自らの財産を費やして活動しました。特に白鳥の保護に力を入れ，その努力により，伊豆沼や内沼がラムサール条約湿地として登録されました。

牧野　富三郎

ハワイ移民船・サイオト号
出典：「ハワイ移民の歴史-新天地を求めた苦難の道-」国書刊行会

生没年不明（江戸～明治時代）
ハワイ移民者の代表　石巻市

江戸時代が終わり，世の中が混乱していたころ，多くの日本人が仕事を求めてハワイに移り住みましたが，きびしい仕事をさせられるなどの差別を受けました。牧野富三郎は，ハワイで働く日本人の生活をよりよいものにするために活躍しました。

日野　藤吉

嘉永2年～大正14年（1849～1925）
梨栽培農家　利府町

米作りに頼って収入が不安定だった利府の農業に，梨の栽培を取り入れました。始めのうちは冷ややかに見る人もいましたが，強い信念をもって働きました。栽培が成功し，天候に大きく左右されずに収入が得られるようになり，大恩人とたたえられました。

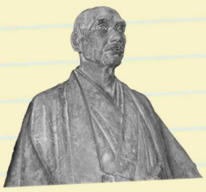
宮城　新昌

明治17年～昭和42年（1884～1967）
水産事業家　石巻市

カキの養殖に興味を持ち，アメリカの研究所で学びました。日本にもどってからは，多くの人々にカキを食べてもらえるように養殖の仕方を研究しました。工夫を重ねて，新しい養殖法や種ガキの輸出方法の開発に成功し，その技術は世界に広がっています。

人物名，生没年，主な職業，出身地・活躍地，人物しょうかい　の順に記しています。

たかはし　ちょうじゅうろう
高橋　長十郎



嘉永2年～昭和8年（1849～1933）
製糸業家　南三陸町

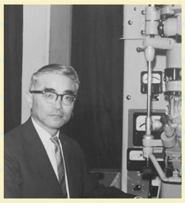
飢饉におびえながら暮らしていた人々の生活を豊かにするために，町の産業を生み出そうと考えました。養蚕が盛んだった南三陸町に，アメリカの機械を取り入れて製糸会社をつくりました。生産した生糸は，パリ万国博覧会でグランプリを受賞しました。

すずき　てつろう
鈴木　哲朗

慶応2年～昭和8年（1866～1933）
水産事業家　気仙沼市

アメリカにわたり，働きながら漁法や経営学を学びました。日本にもどってからは，貧しい人々の暮らしを豊かにするために新しい漁業の方法を研究し，マグロ巻き網漁法を改良して遠洋漁業に取り組みました。誠実な人柄で，地域の発展のためにつくしました。

ただの　ぶんや
只野　文哉



明治40年～平成17年（1907～2005）
電子技術者　岩沼市

電子顕微鏡の研究に興味をもち，実験にくり返し取り組みました。失敗をおそれない努力が実を結び,国産第1号の電子顕微鏡の開発に成功しました。また，長年にわたり，小･中学生に科学のおもしろさや科学技術のすばらしさを伝える活動を続けました。

かみなが　あきお
神永　昭夫

昭和11年～平成5年（1936～1993）
柔道家　仙台市

中学時代に読んだ小説にあこがれて柔道を始めました。大学時代は柔道部の主将となり，全日本選手権で３度の優勝を果たしました。日本代表として出場した昭和３９年の東京オリンピックでは銀メダルを獲得し，その後は多くの柔道選手を育てました。

夢を追いかけて

よしの　さくぞう
吉野　作造

明治11年～昭和8年（1878～1933）
政治学者　大崎市

人々の幸せを願って，国民の考えを政治に取り入れた政治学者です。話合いによる問題解決が大切であることを，「デモクラシー」という言葉で表現しました。「国民のための国民による政治」を目指し，議会を中心とする政治の実現に力をつくしました。

そのべ　ひでお
園部　秀雄

明治3年～昭和38年（1870～1963）
武道家　大崎市

薙刀ひとすじに生きた女性剣士です。東京の学校で指導していた時代には，「薙刀を持って試合をしているときだけが修行ではない。」と教えました。礼儀正しく，規律ある生活をすることの大切さを伝えるなど，薙刀を通して心をみがく教育を目指しました。

ふせ　たつじ
布施　辰治

明治13年～昭和28年（1880～1953）
弁護士　石巻市

多くの人々が貧しい生活に苦しみ，不平等なあつかいを受けていた時代に，弁護士として活躍しました。弱い立場の人々を救うために法廷に立ち，正義をつらぬきました。「生きべくんば民衆と共に，死すべくんば民衆のために」という言葉を残しています。

ちばかめお
千葉　亀雄

明治11年～昭和10年（1878～1935）
ジャーナリスト･評論家　美里町

子供のころから本をたくさん読んで知識や考え方を身に付け，ジャーナリストや評論家として活躍する土台を築きました。新人の作家を育てたり，文学の新しい流れを世の中に広める活動を行ったりするなど，文学の世界に大きな功績を残しました。

ほしたいざぶろう
星　泰三郎

明治26年～昭和57年（1893～1982）
教育者　丸森町

３９年間一日も休まずに，図書館の館長として働きました。子供の喜びそうな本を自分で買って図書館に入れるなど，たくさんの子供たちが図書館に集まるよう工夫しました。また，子供だけでなく地域の人々にも，読書の楽しさやすばらしさを広めました。

おいかわ　へいじ
及川　平治

明治8年～昭和14年（1875～1939）
教育者　栗原市

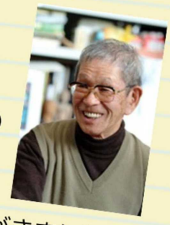
子供の個性を大切にした授業を行いました。知識を教えこむ授業に疑問をもち，グループ学習や教え合い学習，体験学習などを取り入れました。現在の教育の先取りとも言える授業で，その方法を学ぶために多くの参観者が教室を訪れました。

石ノ森　章太郎

昭和13年～平成10年（1938～1998）
萬画家　登米市

子供のころから絵が得意で，まんが家として才能を発揮しました。まんがで表現することの可能性を広げ，後のまんが家にも大きな影響をあたえました。「まんがの王様」と呼ばれ，作品数が世界で最も多いまんが家としてギネスに認定されました。

佐藤　忠良



明治45年～平成23年（1912～2011）
彫刻家　大和町・丸森町

自らを職人と呼んで，彫刻の技をみがきました。人間愛や自然愛にあふれた多くの作品をつくり，全国各地に展示されています。また，絵本「おおきなかぶ」のさし絵をかくなど，子供たちの感性を豊かに育むための美術教育にも力を注ぎました。

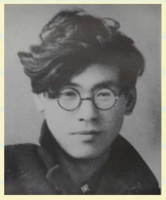
感性と技をみがいて

小室　達

明治32年～昭和28年（1899～1953）
彫刻家　柴田町

美術大学の学生のころから才能を発揮し，努力を重ねて，高い評価を受ける彫刻家になりました。仙台城の跡にある伊達政宗の騎馬像（馬に乗った姿を表した像）は，小室達が制作しました。この騎馬像は，現在も宮城県のシンボルの一つとして有名です。

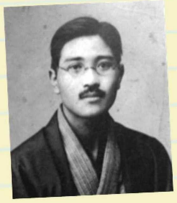
高橋　英吉



明治44年～昭和17年（1911～1942）
彫刻家　石巻市

彫刻家になるという夢に向かって，子供のころから努力を続けました。ふるさとの海を心から愛し，海をテーマにした自分らしい作品作りに取り組みました。彫刻家としての将来を期待されていましたが，戦争により，３１才の若さで亡くなりました。

白鳥　省吾



明治23年～昭和48年（1890～1973）
詩人　栗原市

文芸誌に送った詩が入選したことをきっかけに，詩人の道に進みました。ふるさとの自然や農民の生活などを題材に，日常使う言葉で分かりやすく詩を表現しました。また，多くの学校の校歌の作詞や，アメリカの詩を紹介することでも活躍しました。

佐藤　忠太郎

明治34年～昭和43年（1901～1968）
民芸研究家　白石市

古くから伝わる「白石紙布」（白石和紙を使った織物）の技法が，明治時代になると受けつがれなくなってしまいました。佐藤忠太郎は，郷土の特産品をなくしてはいけないと考えて研究を重ね，じょうぶで美しい「白石紙布」を復活させました。

水上　不二

明治37年～昭和40年（1904～1965）
詩人　気仙沼市

気仙沼市の大島に生まれました。美しい海や山に囲まれて過ごした少年時代にみがかれた感性を生かし，海や子供たちへの愛情あふれる詩を数多く残しました。ふるさとの小・中学校の校歌や児童会の歌なども作詞し，現在も歌いつがれています。

千葉　あやの

明治22年～昭和55年（1889～1980）
藍染伝承者　栗原市

日本で最も古い藍染の技法を受けついだ者として，人間国宝に指定されました。藍の栽培や自然発酵による染め方は手間がかかり，やめてしまう人がたくさんいましたが，藍染だけは続けるようにという先代の教えを守り，染物を作り続けました。

小野寺　久幸

昭和4年～平成23年（1929～2011）
文化財修理技師　気仙沼市

子供のころから工作が好きだったことから，仏像を修理する仕事につきました。高い技術を身に付け，多くの国宝や文化財の修理を行いました。東大寺の仁王像の修理を見事に成功させたことにより，東大寺から「大仏師」という称号をあたえられました。

伝統を受けついで

後藤　桃水

明治13年～昭和35年（1880～1960）
民謡研究家　東松島市

子供のころは音楽の勉強が苦手でしたが，尺八の音色に心を動かされて，唄の道を志しました。尺八を教えながら，全国にいる唄い手と交流し，全国各地に伝わる唄を「民謡」と名付けました。「民謡」の価値を高めたことから「民謡の父」と呼ばれています。

人物名，生没年，主な職業，出身地や活躍地，人物しょうかい　の順に記しています。

いしのもり しょうたろう
石ノ森 章太郎
～まんがの可能性を広げる～
かとう
加藤 き
～国境を越え
ながさわ さいきち
永澤 才吉
～安全な水を人々に～
さいとう まこと
齋藤 眞
～脳神経外科の道をひらく～
ちばかめお
千葉 亀雄
～文学の発展のために～
ごと
後
～民
ひのとうきち
日野 藤吉
～梨の栽培で村を救う～
こむろ とおる
小室 達
～ふ
～政宗公の騎馬像をつくる～
ただの ぶんや